

へいせい ねんど
平成21年度

ねりま く がいこくせきじゅうみんいしきいこうちようさほうこくしょ
練馬区外国籍住民意識意向調査報告書

がい よう ばん
概要版

ちようさ もくてき
調査の目的

練馬区は、現在、約13,000人強の外国籍住民が生活しており、抱える課題は多岐にわたっている。そこで、外国籍住民の現状や実態を調査することにより、区政の課題や区民のニーズを把握し、練馬区全体の施策として、国籍や習慣が異なる人々が認め合いながら共生する地域づくりを自指していくための基礎的資料となる本調査を実施することにより、区民に対し、外国籍住民も日本人住民も同じ地域社会の構成員であり、ともに生きていく生活者であるという意識の啓発を進めるものである。

ちようさ たいしょう
調査の対象

下記の調査対象者6,003名に、日本語版と多言語版（中国語版、ハングル版、英語版、タガログ語版、タイ語版のいずれか1言語版）の計2種のアンケート調査票を送付して調査を行った。

練馬区在住の満20歳以上の外国籍住民の男女（国籍：計97カ国、及び無国籍）

区内全域から無作為で抽出した6,003名

はいふすう 配布数	かいしゅうすう 回収数	がいしゅうりつ 回収率	ゆうこうひょうすう 有効票数
6,003	1,833	30.5%	1,829

ちようさきかん
調査期間

アンケート調査票の発送・配布：平成21年7月9日

アンケート調査票の回収（返送締切日）：平成21年7月24日

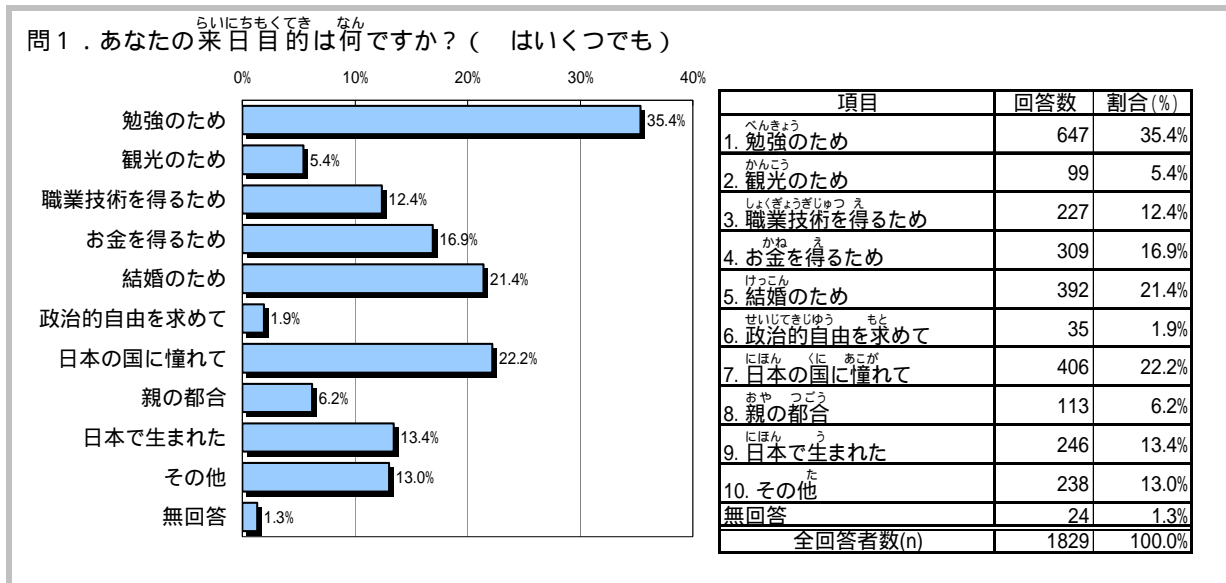
も く じ 目 次

(1) 来日目的	1
(2) 練馬区の住みやすさについての認識	2
(3) 日本の生活で困っていること・不満なこと	3
(4) 日本語で困ること	4
(5) 日本語の学習状況・学習意向と日本語の学び方	6
(6) 日本語教室の利用向上のために重要なこと	8
(7) 近所の日本人との付き合いの程度	9
(8) 普段付き合いのある人	10
(9) 外国人同士で相談できる仲間	11
(10) 地域の日本人に望むこと	13
(11) 生活の中で必要な情報	14
(12) 日常生活における相談相手	15
(13) 不安に感じている災害や事故等	16
(14) 防災対策等で区に望むこと	18
(15) 近所の日本人とのトラブルの経験	19
(16) 日本人からの偏見・差別	20
(17) 共生のまちづくり推進で区が注力すべきこと	22
(18) 共生のまちづくりのために自分自身ができること	23
(19) 自由記入欄にみる練馬区に対する意見・要望・提案	24

アンケートの集計結果

(1) 来日目的

- 来日目的は、「勉強のため」(35.4%)に次いで、「日本の国に憧れて」(22.2%)、「結婚のため」(21.4%)が多い。

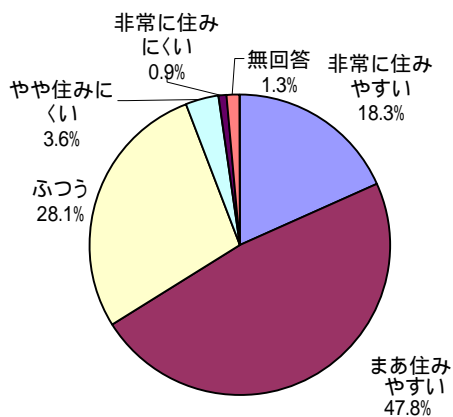


- ・ 男女別にみると、「勉強のため」及び「日本の国に憧れて」はあまり差はないが、「結婚のため」は男性より女性の割合が高く、「職業技術を得るため」「お金を得るため」は男性の割合が高い。
- ・ 国籍別にみると、フィリピン国籍及びアフリカ分類国籍の回答者で「結婚のため」の割合が高くなっている。
- ・ 日本の滞在年数別にみると、「勉強のため」の割合が滞在期間の短い回答者ほど少ない。滞在3年未満の回答者では「勉強のため」が多く、3年以上～20年未満では「結婚のため」が多くなり、さらに20年以上では「日本で生まれた」が多くを占める。
- ・ 在留資格別にみると、<身分又は地位に基づく在留資格>に比べて<活動に基づく在留資格>をもつ回答者では「勉強のため」が突出して多く、次いで「日本の国に憧れて」が多い。

(2) 練馬区の住みやすさについての認識

練馬区が「非常に住みやすい」「まあ住みやすい」と答えた回答者が合わせて 66.1%で、おおよそ 7 割弱が住みやすいと認識している。反対に「非常に住みにくい」「やや住みにくい」は合わせて 4.5%と少ない。

問2. あなたにとって練馬区は住みやすいところだと思いますか？（ は1つだけ）

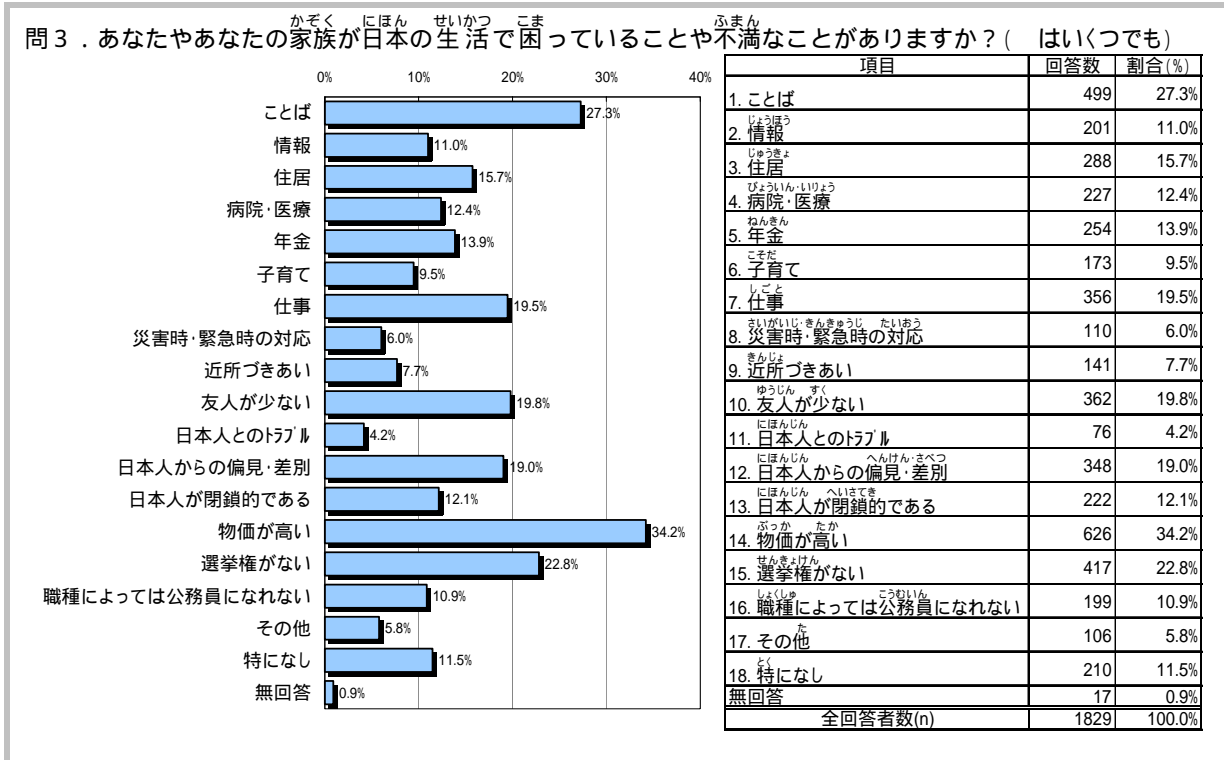


項目	回答数	割合 (%)
非常に住みやすい	335	18.3%
まあ住みやすい	875	47.8%
ふつう	514	28.1%
やや住みにくい	66	3.6%
非常に住みにくい	16	0.9%
無回答	23	1.3%
全回答者数(n)	1829	100.0%

- 回答者の居住地による大きな差はみられないが、若干、西部（南西部、北西部）地域よりも東部（南東部、北東部）地域在住者の方が、住みやすいと認識されている回答割合が高い。
- 国籍別にみると、フィリピン国籍の回答者、及びアフリカ分類国籍の回答者で、住みやすいと認識されている割合が低く、反対に南アメリカ、ヨーロッパ分類国籍の回答者で住みやすいと認識されている割合が高い。
- 日本滞在年数が高い回答者ほど、住みやすいとの認識よりも、「ふつう」の回答割合が高くなる傾向がうかがえる。

(3) 日本の生活で困っていること・不満なこと

日本の生活で困っていることや不満なこととして、「物価が高い」34.2%が最も多く、次いで「ことば」27.3%が多い。「特になし」は1割ほどと少ない。

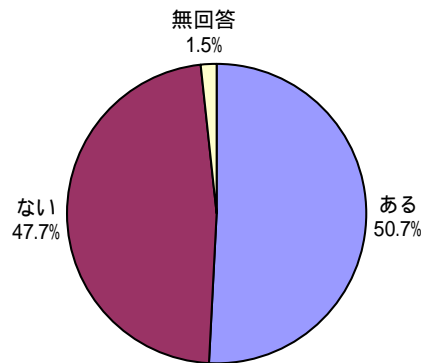


- 年齢の若い回答者ほど「物価が高い」ことに困っている割合が高く、若年層では「ことば」「友人が少ない」の割合も高くなる傾向がみられる。
- 年齢の高い回答者ほど、また、日本滞在年数の長い回答者ほど、「選挙権がない」「年金」といった社会制度に関連する項目に対し、困惑・不満を感じている割合が高くなっている。
- 国籍別にみると、アフリカ分類国籍の回答者の割合が、項目全般に渡って高く、日本の生活において困惑することが他の国籍よりも多くなっている傾向がうかがえる。
- 就業形態別にみると、正社員（管理職／一般）と、派遣・契約社員及びパート・アルバイト（学生／学生以外）を比べると、「仕事」「病院・医療」「ことば」で困っている割合が、正社員より派遣・契約社員及びパート・アルバイトの方が高くなっている。
- 練馬区が住みにくいと認識している回答者で割合の高い項目としては、「ことば」「住居」「子育て」「仕事」「日本人とのトラブル」「日本人からの偏見・差別」「日本人が閉鎖的」があげられる。

(4) 日本語で困ること

日本語で困ることが「ある」回答者が 50.7%、「ない」回答者が 47.7%で、おおよそ半数が日本語で困ることがあると答えている。

問4 . あなたは日本語に関して困ることがありますか？（ は1つだけ）

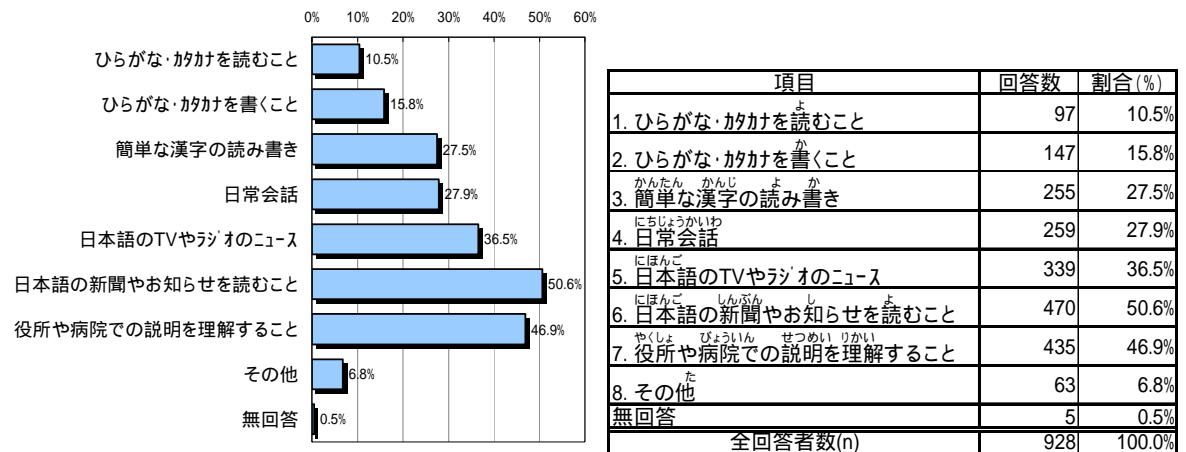


項目	回答数	割合 (%)
1. ある	928	50.7%
2. ない	873	47.7%
無回答	28	1.5%
全回答者数(n)	1829	100.0%

- 国籍別では、フィリピン国籍の回答者で「ある」の割合が他の国籍より高く、韓国・朝鮮、米国・中国・台湾国籍の回答者では「ない」の割合が高い。
- 得意な言語別でも、フィリピン語を得意とする回答者で「ある」の割合が高く、フィリピンを含めタイ、インドネシアの東南アジア 3ヶ国の言語とポルトガル語で困ることが「ある」の割合が高い。
- 就業形態別では、会社役員や正社員（管理職／一般）よりも派遣・契約社員、パート・アルバイト（学生／学生以外）の回答者の方が、日本語で困ることが「ある」の割合が高くなっている。
- 日本滞在年数別にみると、5年以上10年未満、10年以上20年未満といった滞在が長年に渡っている回答者も、その5割は困ることが「ある」と答えており、また、20年以上50年未満の滞在者も3割が「ある」と答えている。

日本語で困ることの具体的な内容としては、「日本語の新聞やお知らせを読むこと」50.6%が最も多く、次いで「役所や病院での説明を理解すること」46.9%が多い。

問 4-1.【問 4 で「1.ある」と答えた方のみ】それはどんなことですか？（はいくつでも）

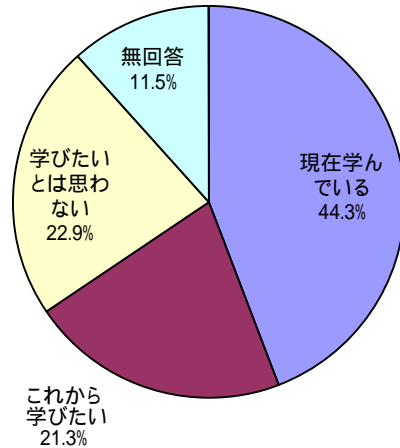


- ・ ひらがな・カタカナ、漢字の読み書きで困る割合は、20代・30代よりも 40代・50代の方が高くなっている。
- ・ 得意な言語別にみると、フィリピン語、タイ語、インドネシア語を得意とする回答者で「簡単な漢字の読み書き」で困ると答えた割合が高くなっている。
- ・ 滞在年数別にみると、滞在年数が長くなるほど「日常会話」や「TVやラジオのニュース」の割合は低くなるが、「簡単な漢字の読み書き」の割合が高くなる傾向がみられる。
- ・ また、「新聞やお知らせを読むこと」「役所や病院での説明を理解すること」は滞在年数に関わらず（長期滞在の回答者であっても）困ると答えた割合が高い。

(5) 日本語の学習状況・学習意向と日本語の学び方

日本語の学習状況について、回答者の44.3%が「現在学んでいる」、21.3%が「これから学びたい」と答えている。

問5. あなたは、今後、日本語を学びたいと思いますか？（は1つだけ）

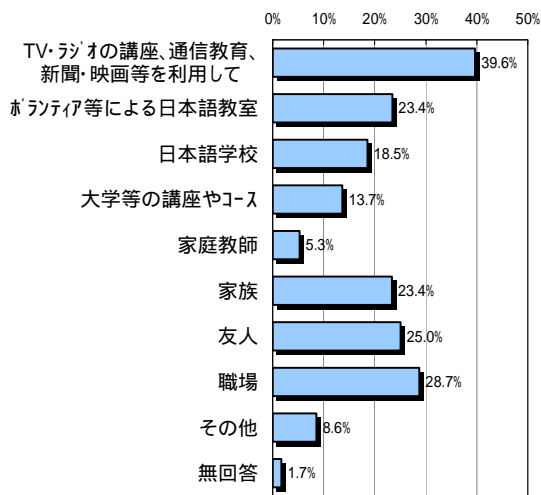


項目	回答数	割合(%)
1. 現在学んでいる	810	44.3%
2. これから学びたい	389	21.3%
3. 学びたいとは思わない	419	22.9%
無回答	211	11.5%
全回答者数(n)	1829	100.0%

- ・国籍別みると、フィリピン国籍、アジア分類国籍（中国・台湾・韓国・朝鮮・フィリピンを除く）及びアフリカ分類国籍の回答者で「これから学びたい」の割合が比較的高い。
- ・「現在学んでいる」割合は、欧米系（特に北アメリカ、オセアニア、ヨーロッパ分類）の国籍で高い。
- ・得意な言語別みると、フランス語、英語、ポルトガル語を得意とする回答者で「現在学んでいる」割合が高く、フィリピン語、インドネシア語、タイ語を得意とする回答者で「これから学びたい」の割合が高い。

日本語を現在学んでいる、これから学びたいと答えた回答者に対し、学ぶ方法を訊ねた設問では、「TV・ラジオの講座、通信教育、新聞・映画等を利用して」が39.6%で最も多く、次いで「職場」28.7%が多い。

問 5-1.【問5で「1.現在学んでいる」「2.これから学びたい」と答えた方のみ】どのような方法で学びますか？または、これから学びたい方はどのような方法で学びたいですか？（はいくつでも）



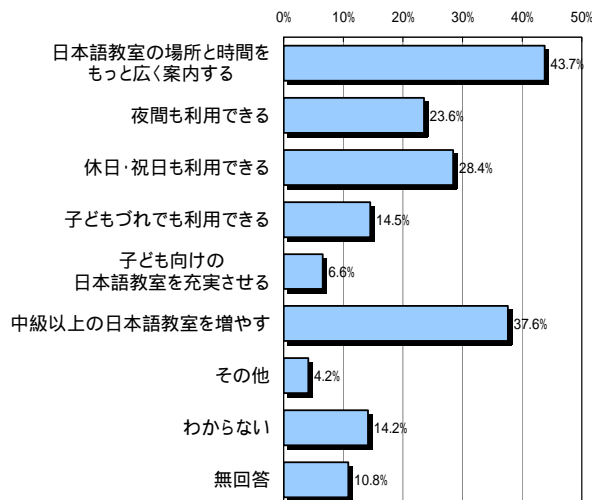
項目	回答数	割合 (%)
1. TV・ラジオの講座、通信教育、新聞・映画等を利用して	475	39.6%
2. ボランティア等による日本語教室	281	23.4%
3. 日本語学校	222	18.5%
4. 大学等の講座やコース	164	13.7%
5. 家庭教師	63	5.3%
6. 家族	280	23.4%
7. 友人	300	25.0%
8. 職場	344	28.7%
9. その他	103	8.6%
無回答	20	1.7%
全回答者数(n)	1199	100.0%

- ・「ボランティア等による日本語教室」や「日本語学校」、「大学等の講座やコース」に通う学び方よりも、「職場」「友人」「家族」といった身近な人から、暮らしの中で学んでいきたいという意向がうかがえる結果になっている。
- ・しかし、日本語をこれから学びたいと答えた回答者では、「ボランティア等による日本語教室」の割合が最も高くなっている。
- ・国籍別にみると、フィリピン国籍の回答者で「ボランティア等による日本語教室」、南アメリカ分類国籍の回答者で「日本語学校」の割合が高い特徴がみられ、得意な言語別にみてもフィリピン語、タイ語、スペイン語を得意とする回答者で「ボランティア等による日本語教室」での学習を望む割合が高くなっている。
- ・自由記入欄の記述回答においても、「日本語を学習したい」という内容の記述が多くみられ、その記述内容からは学習意欲の高さよりも、学びたいが学ぶ機会や時間がないといった内容が多く、また、30代・40代の子育て世代の女性回答者（特にフィリピン国籍回答者：在留資格「日本人の配偶者等」が4割を占める）の記述回答からは、「子どものためにも（きちんとした）日本語を学びたい」と考える回答者が少なくないことがうかがえる。

(6) 日本語教室の利用向上のために重要なこと

区主催もしくはボランティアによる日本語教室の利用向上のために重要なこととして、「日本語教室の場所と時間をもっと広く案内する」43.7%が最も多く、次いで「中級以上の日本語教室を増やす」37.6%が多い。

問6 練馬区内には、練馬区主催の日本語教室やボランティアによる日本語教室があります。あなたは日本語教室がもっと利用しやすくなるために、今後、どのようなことが重要だと思いますか？（はいくつでも）



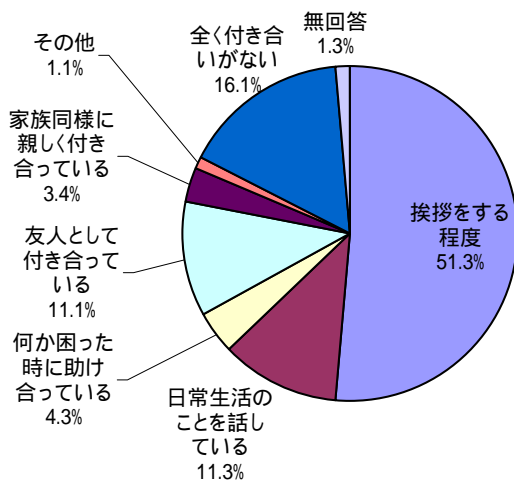
項目	回答数	割合 (%)
1. 日本語教室の場所と時間をもっと広く案内する	800	43.7%
2. 夜間も利用できる	431	23.6%
3. 休日・祝日も利用できる	520	28.4%
4. 子どもづれでも利用できる	266	14.5%
5. 子ども向けの日本語教室を充実させる	120	6.6%
6. 中級以上の日本語教室を増やす	687	37.6%
7. その他	76	4.2%
8. わからない	259	14.2%
無回答	198	10.8%
全回答者数(n)	1829	100.0%

- 男性と女性を比べると、男性では「夜間も利用できる」、女性では「中級以上の教室を増やす」が重要と考える割合が高い。
- 年齢が20代・30代の回答者で「中級以上の教室を増やす」ことを重視している割合が高くなっており、また、若年層ほど「教室の場所と時間をもっと広く案内する」の割合が高いことから、日本語教室に関する情報ニーズが若い外国籍住民において高い、もしくは日本語教室に関する情報が若年層では受信されにくい状況にあることがうかがえる。
- ボランティアによる日本語教室の利用志向の高いフィリピン語、タイ語、スペイン語を得意とする回答者で、「教室の場所と時間をもっと広く案内する」とともに「中級以上の教室を増やす」、「休日・祝日も利用できる」ことが重要と考える回答者が多くなっている。
- 「中級以上の教室を増やす」の割合は、これから学びたいと考えている回答者、現在学んでいる回答者ともに4~5割と高く、学びたいとは思わないと答えた回答者についても、その2割強が「中級以上の教室を増やす」ことは重要であると答えている。
- また、自由記入欄の記述回答においても、「どこで日本語が学習できるか知りたい」をはじめ、「スキルアップのための学習」や「生活習慣や文化等を学びながら日本語も学びたい」といったプログラムについての要望、「子ども連れでも受講可能にしてほしい」「仕事があるため開講日時を幅広くしてほしい」といった受け入れ体制についての要望など、多彩な意見（ニーズ）をみることができる。

(7) 近所の日本人との付き合いの程度

近所の日本人との付き合いの程度については、「挨拶をする程度」が51.3%で最も多く、「日常生活のことを話している」「何か困った時に助け合っている」「友人として付き合い合っている」「家族同様に親しく付き合い合っている」は合わせて3割ほどとなっている。

問7. あなたは近くに住む日本人とどのような付き合いがありますか？（は1つだけ）



項目	回答数	割合 (%)
1. 挨拶をする程度	939	51.3%
2. 日常生活のことを話している	207	11.3%
3. 何か困った時に助け合っている	79	4.3%
4. 友人として付き合い合っている	203	11.1%
5. 家族同様に親しく付き合い合っている	63	3.4%
6. その他	20	1.1%
7. 全く付き合いがない	294	16.1%
無回答	24	1.3%
全回答者数(n)	1829	100.0%

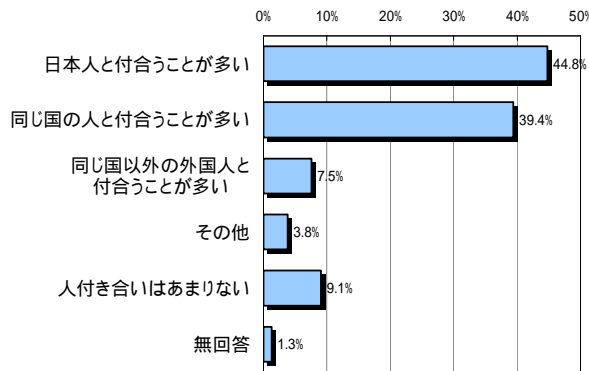
得意な言語が日本語である回答者と、それ以外の言語である回答者で日本人との付き合いの程度を比較すると、日本語を得意とする回答者では「全く付き合いがない」が僅かな割合（5.8%）であるのに対し、日本語以外の言語を得意とする回答者では約2割となっており、日本語の習得状態・レベルによって、近所の日本人との付き合い方も変化している傾向がうかがえる。特に「友人として付き合い合っている」の割合は、日本語を得意とする回答者の方が大きく上回っている。

また、練馬区が住みにくいと認識している回答者ほど、「挨拶をする程度」及び「全く付き合いがない」の割合が高くなる傾向がみられ、近所の人々とのコミュニケーションの状態が、外国籍住民の居住地域に対する認識に少なからず影響していることがうかがえる。

(8) 普段付き合いのある人

普段付き合いのある人については「日本人と付き合うことが多い」が44.8%、「同じ国の人と付き合うことが多い」が39.4%で、若干ではあるが、「日本人と付き合うことが多い」と答えた回答者が多くなっている。

問8. あなたは、ふだんどのような方と付き合うことが多いですか？最も多いものを選んでください。
問8は調査票上、単数回答の設定となっていたが、複数回答が多数あったため複数回答集計を行った。



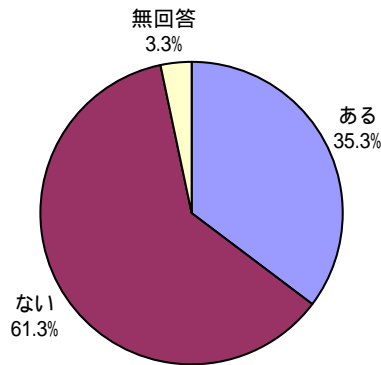
項目	回答数	割合 (%)
1. 日本人と付き合うことが多い	819	44.8%
2. 同じ国の人と付き合うことが多い	721	39.4%
3. 同じ国以外の外国人と付き合うことが多い	138	7.5%
4. その他	70	3.8%
5. 人付き合いはあまりない	166	9.1%
無回答	23	1.3%
全回答者数(n)	1829	100.0%

- ・ 就業形態が自営業・経営者及び技能実習生・研修生の回答者は、「日本人と付き合うことが多い」の割合が高い。また、正社員（管理職／一般）と派遣・契約社員及びパート・アルバイト（学生以外）を比較すると派遣・契約社員及びパート・アルバイトよりも正社員の方が「日本人と付き合うことが多い」の割合が高い。
- ・ 練馬区が住みやすいと認識している回答者は住みにくいと認識している回答者よりも「日本人と付き合うことが多い」の割合とともに、「同じ国の人と付き合うことが多い」の割合も高く、付き合いの範囲が幅広い傾向がうかがえる。
- ・ 日本語で困ることのある回答者となない回答者を比較すると、困ることのない回答者は「日本人と付き合うことが多い」割合が約6割と高く、困ることのある回答者の2倍近い割合となっている。

(9) 外国人同士で相談できる仲間

外国人同士で相談できる仲間等が「ある」と答えた回答者は35.3%、「ない」は61.3%で、約6割が外国人同士で相談できる仲間等が特にないと答えている。

問9. あなたには、外国人同士で相談したり、情報交換などができる仲間やグループがありますか？
(は1つだけ)



項目	回答数	割合(%)
1. ある	646	35.3%
2. ない	1122	61.3%
無回答	61	3.3%
全回答者数(n)	1829	100.0%

- 年齢が30代・40代の回答者で「ある」の割合が比較的高いが、年齢とともに低くなる傾向がみられる。
- 日本滞在年数別にみると、年齢別の傾向と異なり、大きな差異はみられず、外国人同士で相談できる仲間等の「ある」「なし」は、日本に滞在している期間の長短にあまり関係していないことがうかがえる。
- 国籍別にみると、オセアニア、アジア、北アメリカ、ヨーロッパ分類国籍、及び米国国籍の回答者で「ある」の割合が6割超と高いが、全体的にみてアジア系国籍の回答者は外国人同士で相談できる仲間等が「ない」と答えた割合が高くなっている。

がいにくじんどうし なかま がある と 答えた 回答者 に、その グループ の 集まり や 活動内容 等 について 訊ねた 設問 の 回答 (自由記述) を みると、大多数 が 『友人・知人』 に 類する 知己 の 集まり となっている。

レストラン 等 商業施設 や 自宅、学校 といった 身近な 場所に 集い、会話 や スポーツ 等 を 楽しんで いたり しながら 情報交換 を する といった 日常生活 の 延長上 の 付き合い が ほとんど であり、組織 や 団体 による 定期会合 や 定例的 な 活動 は 少数 となっている。

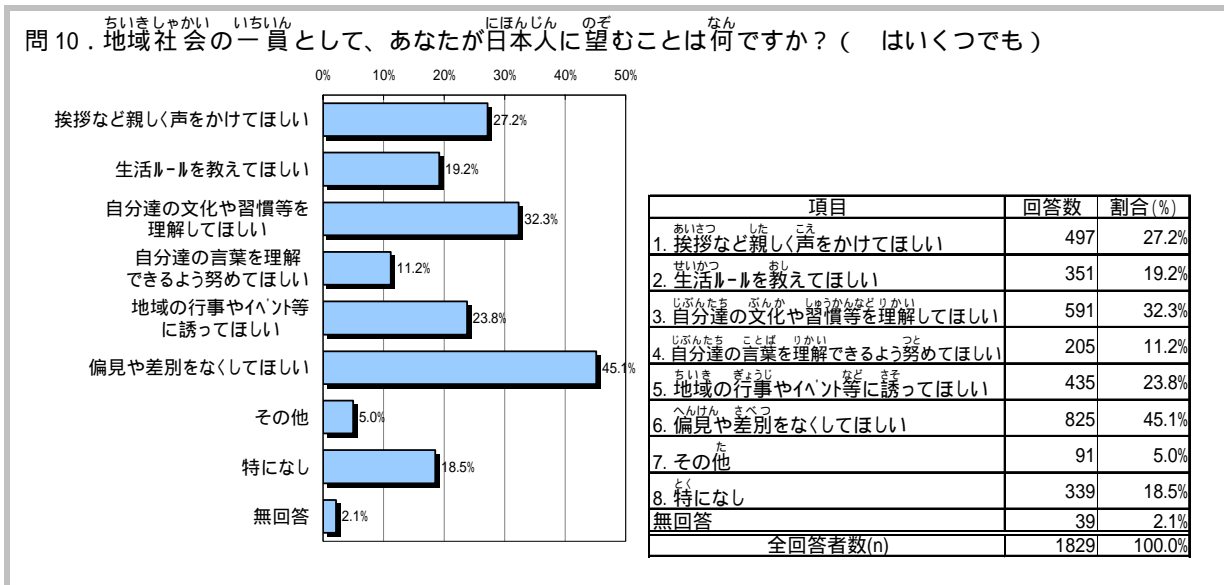
< 表 > 主な外国人同士の仲間についての回答の分類結果

種別	関係性・つながり
信条や出自に関連するつながり	宗教団体のメンバー、同じ宗教施設に通う人 同じ国の人 出身国や民族の関係団体・組織
日常生活や家庭に関連するつながり	仕事仲間、同僚、仕事関係者 子どもの友達のお母さん、ママ友達、子どもの幼稚園・学校の父兄 近所の人 家族や親戚
学校(在学中・卒業校)関係のつながり	学校の(学生時代に知り合った)先生、友達、同級生 日本語学校・日本語教室で出会った先生、友達 留学生同士
コミュニケーションの難易に 関わるつながり	自分の国の言語・文化や国際交流に関心がある人(外国人・日本人) 英語を話せる人(外国人・日本人)
その他個々人の属性・趣向等 に基づくつながり	趣味仲間、サークル仲間、スポーツ仲間 国際結婚等している人 インターネットで知り合った友達

・ 活動内容・場所はそれぞれ個々に多様であるが、得られた回答の大多数が『友人・知人』に類する仲間・グループであることを反映して、自宅(友人宅)、レストラン、カフェ、居酒屋といった生活の延長上にある商業施設が活動場所として多いが、公共施設としては「公園」と答えた回答者が、「同じ国の人」「仕事仲間」「子どもの友達の親」「近所の人」で多くみられた。

(10) 地域の日本人に望むこと

地域社会で日本人に望むこととしては、「偏見や差別をなくしてほしい」が45.1%で最も多く、次いで「自分達の文化や習慣等を理解してほしい」32.3%、「挨拶など親しく声をかけてほしい」27.2%が多い。

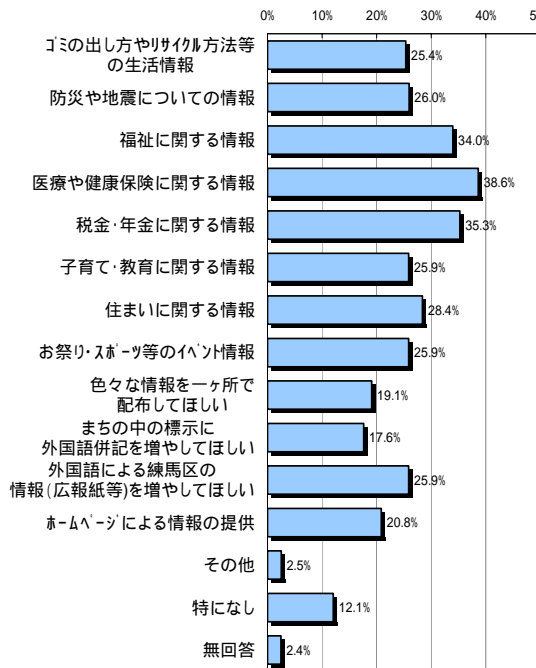


- 国籍別みると、「偏見や差別をなくして」の割合が特に北アメリカ分類及び米国国籍、フィリピン、中国・台湾国籍の回答者で高い。
- 「挨拶など親しく声をかけて」はオセアニア分類、米国、フィリピン国籍の回答者で多く、「生活ルールを教えて」はアフリカ分類国籍、「自分達の文化や習慣等を理解して」はフィリピン、中国・台湾国籍の回答者で多い。
- 練馬区が住みにくいと認識している回答者で割合が高い項目は、「偏見や差別をなくして」「自分達の文化や習慣等を理解して」「生活ルールを教えて」などとなっている。
- 日本語で困ることのある回答者で割合が高い項目としては、「自分達の文化や習慣等を理解して」「挨拶など親しく声をかけて」「生活ルールを教えて」「自分達の言葉を理解できるよう努めて」があげられる。「偏見や差別をなくして」の割合は、日本語で困ることの有無に関わらず、高い割合になっている。

(11) 生活の中で必要な情報

生活の中で必要な情報については、「医療や健康保険に関する情報」38.6%が最も多く、次いで「税金・年金に関する情報」35.3%、「福祉に関する情報」34.0%が多い。

問11. あなたは練馬区で生活していく上で、どのような情報が必要だと思いますか？(はいくつでも)

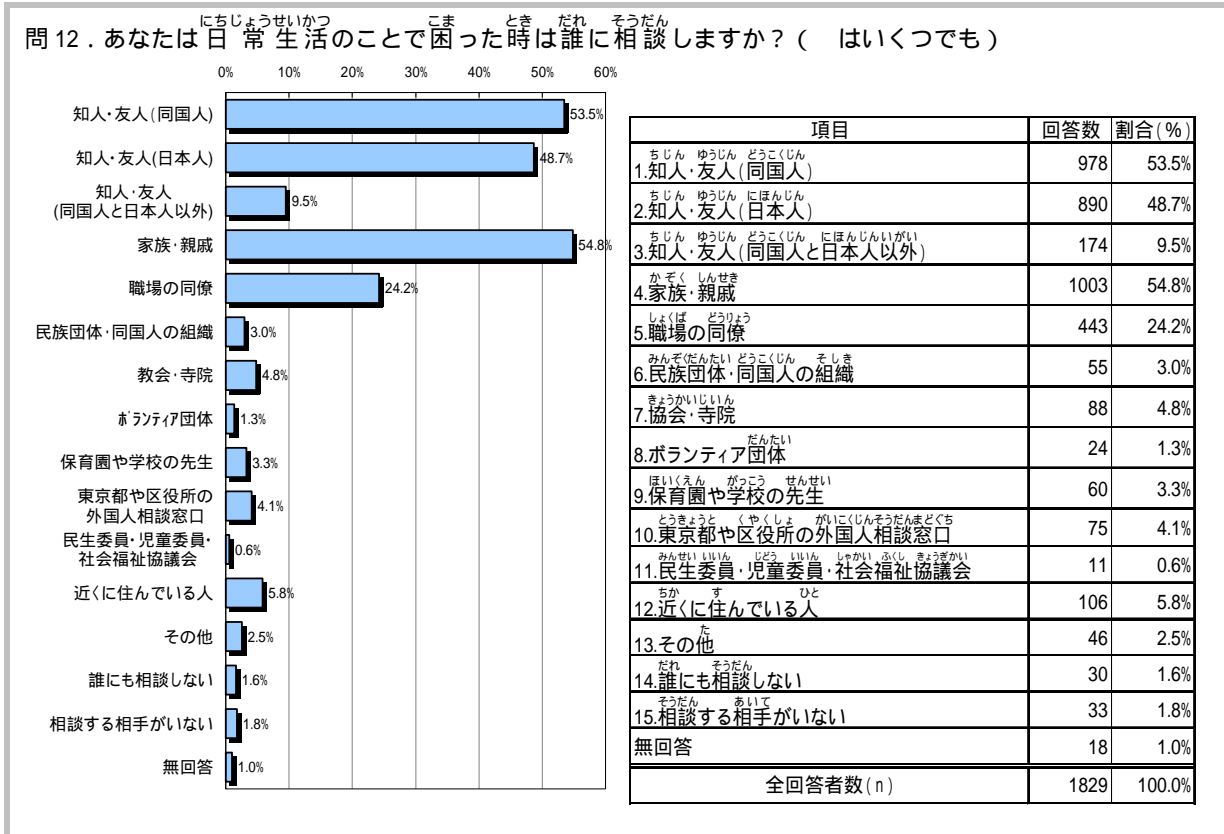


項目	回答数	割合 (%)
1. ゴミの出し方やリサイクル方法等の生活情報	464	25.4%
2. 防災や地震についての情報	475	26.0%
3. 福祉に関する情報	621	34.0%
4. 医療や健康保険に関する情報	706	38.6%
5. 税金・年金に関する情報	645	35.3%
6. 子育て・教育に関する情報	474	25.9%
7. 住まいに関する情報	520	28.4%
8. お祭り・スポーツ等のイベント情報	474	25.9%
9. 色々な情報を一ヶ所で配布してほしい	349	19.1%
10. まちの中の標示に外国語併記を増やしてほしい	322	17.6%
11. 外国語による練馬区の情報(広報紙等)を増やしてほしい	473	25.9%
12. ホームページによる情報の提供	381	20.8%
13. その他	46	2.5%
14. 特になし	221	12.1%
無回答	44	2.4%
全回答者数(n)	1829	100.0%

- ・ 滞在年数が長い回答者ほど「医療や健康保険」「税金・年金」といった社会保障制度に関わる情報に対する回答割合が高く、「お祭り・スポーツ等のイベント情報」は滞在期間の短い回答者ほど高い割合になっている。
- ・ 欧米系の国籍およびフィリピン国籍の回答者で、社会(保障)制度関連の情報に対する回答割合が高く、欧米系国籍の中でも特にオセアニア分類の国籍で高い割合となっている。
- ・ 練馬区が住みにくいと認識している回答者では、「福祉」「医療や健康保険」「税金・年金」といった社会保障制度関連の情報や、「住まい」に関する情報が必要である、あるいは不足していると考える回答者が多くなっていることがうかがえる。
- ・ 日本語で困ることがあると答えた回答者は、いずれの情報についても情報ニーズが高い。
- ・ 外国人同士で相談できる仲間があると答えた回答者は、ないと答えた回答者より、いずれの情報についても回答割合が高く、相談相手や仲間がいる回答者ほど諸々の情報に対する関心が高くなる傾向がうかがえる。

(12) 日常生活における相談相手

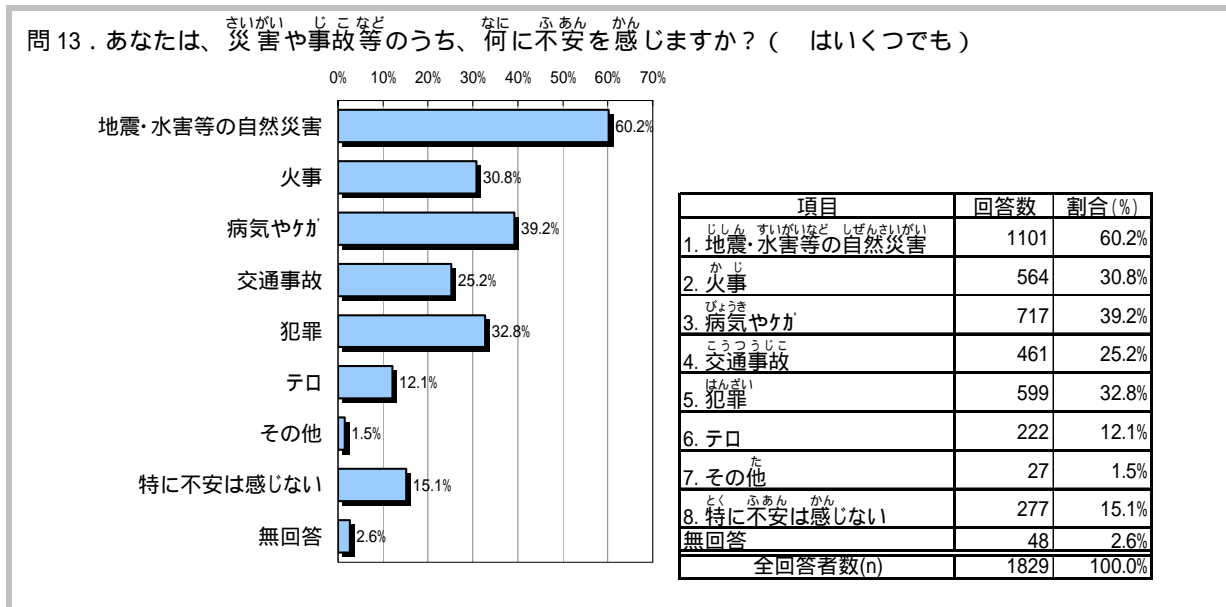
日常生活で困った時の相談相手については、「家族・親戚」が最も多く、次いで「知人・友人（同国人）」53.5%、「知人・友人（日本人）」48.7%が多い。「東京都や区役所の外国人相談窓口」や「民生委員・児童委員・社会福祉協議会」をあげた回答者は少ない。



- 外国人同士で相談できる仲間がある回答者は、多数の項目で回答割合が高くなっており、相談相手となる人が複数かつ多様なものとなっていることがうかがえる。
- 相談相手がいない項目（「誰にも相談しない」「相談する相手がいない」）の割合が、欧米・アフリカ系国籍の回答者ではほぼ皆無であるのに対し、アジア系国籍ではそれぞれ少数ながら存在するといった特徴がみられる。

(13) 不安に感じている災害や事故等

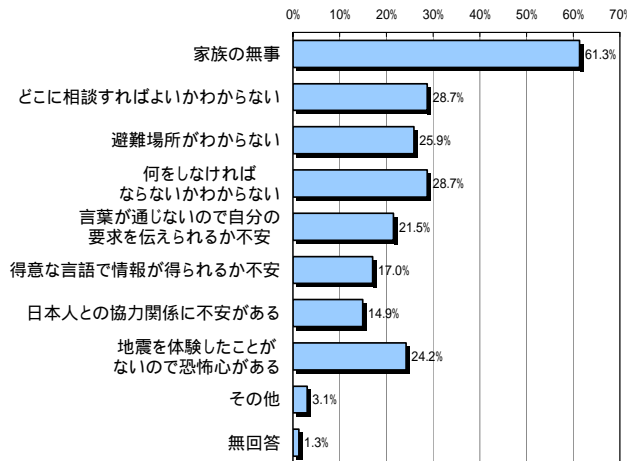
不安に感じる災害や事故等は「地震・水害等の自然災害」60.2%が最も多く、次いで「病気やケガ」39.2%、「犯罪」32.8%が多いが、「地震・水害等の自然災害」は突出して多い。



- ・アジア系国籍の回答者は、フィリピン国籍の回答者も含め、「病気やケガ」を不安視する割合が欧米系国籍の回答者に比べて高い。
- ・ヨーロッパ及びオセアニア分類国籍の回答者は自然災害を除いたいずれの項目も回答割合が他の国籍より低く、反対に「特に不安は感じない」の割合が高い。

災害や事故等で不安があると答えた回答者が、実際に心配していることとしては、「家族の無事」が61.3%で最も多く、次いで「どこに相談すればよいかわからない」「何をしなければならぬかわからない」が共に28.7%が多い。

問 13-1.【問 13 で 1.～7.までのいずれかを選んだ方】災害や事故等に巻き込まれた場合、あなたは何が心配ですか？（はいくつでも）



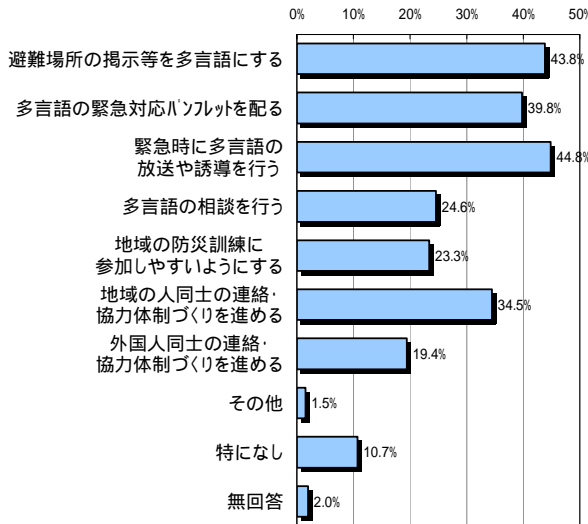
項目	回答数	割合 (%)
1.家族の無事	922	61.3%
2.どこに相談すればよいかわからない	432	28.7%
3.避難場所がわからない	390	25.9%
4.何をしなければならぬかわからない	432	28.7%
5.言葉が通じないので自分の要求を伝えられるか不安	324	21.5%
6.得意な言語で情報が得られるか不安	256	17.0%
7.日本人との協力関係に不安がある	224	14.9%
8.地震を体験したことがないので恐怖心がある	364	24.2%
9.その他	46	3.1%
無回答	19	1.3%
全回答者数 (n)	1504	100.0%

- 全体的な傾向として、災害等に実際に遭遇した際に想定される不安に類する回答項目よりも、災害・事故等に関する対策方法などが『わからない』に類する回答項目の割合が高くなっており、事前に把握しておくべき災害・事故等に対する情報・知識の不足を不安に思っている回答者が少なくない傾向がうかがえる。
- 日本語で困ることがあると答えた回答者は、いずれの項目（心配事項）も懸念されている割合が高くなっている。

(14) 防災対策等で区に望むこと

防災対策として区に望むこととしては、「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」が44.8%で最も多く、次いで僅差で「避難場所の掲示等を多言語にする」43.8%が多い。

問14. 地震などの災害が起こった時には、外国人を含めて地域住民が協力し合って対応することが求められます。あなたは練馬区にどのような対策を望みますか？（はいくつでも）



項目	回答数	割合 (%)
1. 避難場所の掲示等を多言語にする	801	43.8%
2. 多言語の緊急対応パンフレットを配る	728	39.8%
3. 緊急時に多言語の放送や誘導を行う	820	44.8%
4. 多言語の相談を行う	450	24.6%
5. 地域の防災訓練に参加しやすいようにする	427	23.3%
6. 地域の人同士の連絡・協力体制づくりを進める	631	34.5%
7. 外国人同士の連絡・協力体制づくりを進める	355	19.4%
8. その他	27	1.5%
9. 特になし	196	10.7%
無回答	36	2.0%
全回答者数(n)	1829	100.0%

<表> 回答者の得意言語別にみた回答割合が5割以上となっている項目と言語

多言語での取り組みが望まれる項目

左項目を望む回答者の割合が5割以上の言語（回答者の得意言語）

「避難場所の掲示等を多言語にする」

インドネシア語、フィリピン語、タイ語、英語、ポルトガル語、フランス語、スペイン語

「多言語の緊急対応パンフレットを配る」

フィリピン語、インドネシア語、英語、スペイン語

「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」

インドネシア語、ポルトガル語、英語、フィリピン語、タイ語、中国語

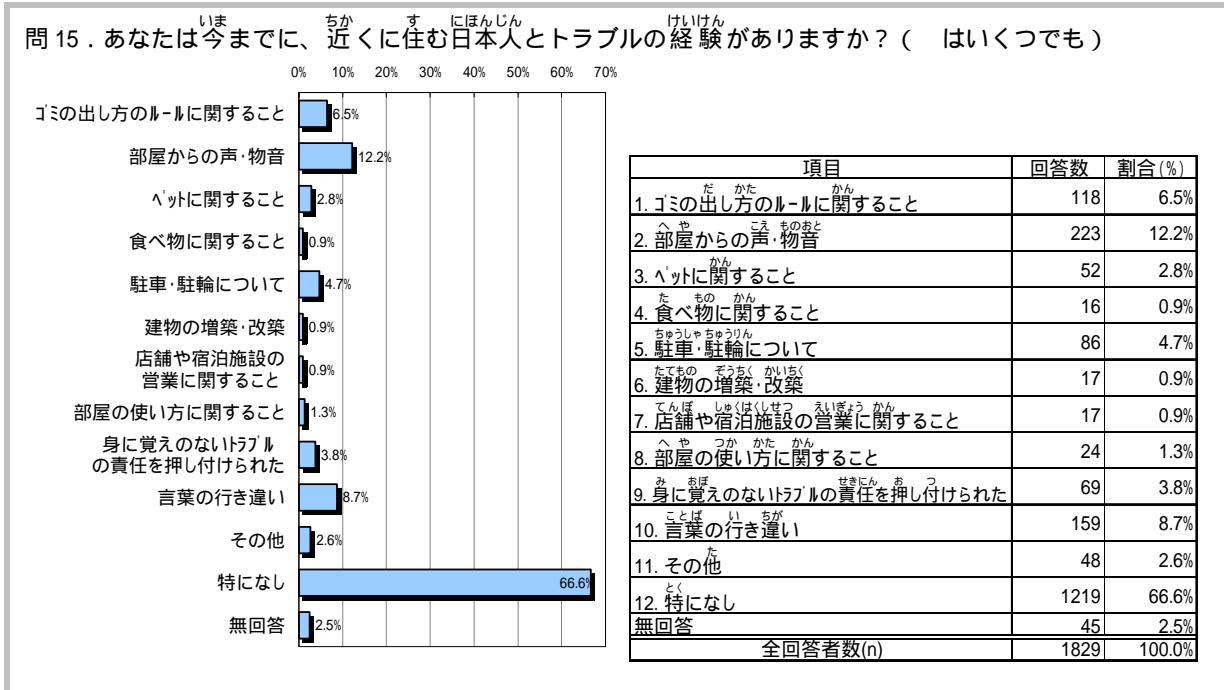
「多言語の相談を行う」

フィリピン語、インドネシア語

- ・ 居住地域別に見ると、南東部地域在住者の「避難場所の掲示等を多言語にする」、北西部・南東部地域の「地域の防災訓練に参加しやすくする」、北西部地域の「地域の人同士の連絡・協力体制づくり」の割合がやや高い。
- ・ 日本滞在50年以上の長期の回答者で「地域の人同士の連絡・協力体制づくり」の割合が高い。
- ・ 「避難場所の掲示等を多言語にする」「多言語の緊急対応パンフレットを配る」「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」の割合は、日本語で困ることのある回答者で5~6割と高い。また、「多言語の相談を行う」も日本語で困ることのある回答者で高くなっている。
- ・ 「地域の人同士の連絡・協力体制づくり」の割合は、日本語で困ることのない回答者の方が高く、反対に「外国人同士の連絡・協力体制づくり」は困ることのある回答者の方が高い。

(15) 近所の日本人とのトラブルの経験

近所の日本人とのトラブルの経験については「特になし」が66.6%で、7割近い回答者が特にトラブルは経験していないと答えている。「特になし」と「無回答」を除いた約3割の回答者がいずれかのトラブルを経験しており、最も多いトラブルは「部屋からの声・物音」12.2%となっている。

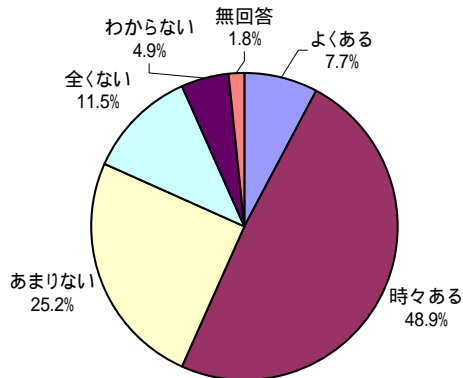


- 国籍別にみると、いずれの国籍も「特になし」の割合が最も高い。特に中国・台湾、フィリピン国籍の回答者で「特になし」が7割以上と高い。反対にオセアニア、アフリカ分類国籍、及び米国国籍の回答者は「特になし」の割合が5割未満で国籍別の中では低い結果となっている。
- 具体的なトラブルの項目をみていくと、「部屋からの声・物音」の割合が米国及び北アメリカ分類の国籍の回答者で、他の国籍に比べて高くなっている。
- 練馬区が住みにくいと認識している回答者が経験したトラブルとして割合の高いものは、「ゴミの出し方のルール」「部屋からの声・物音」「言葉の行き違い」などとなっている。

(16) 日本人からの偏見・差別

日本人からの偏見・差別を感じたことが「よくある」7.7%と「時々ある」48.9%を合わせて計56.6%の回答者が偏見・差別を感じたことがあると答えている。「全くない」と「あまりない」は合わせて36.7%となっている。

問 16. あなたは、ふだんの生活の中で、日本人から外国人に対する偏見や差別を感じたことがありますか？（は1つだけ）

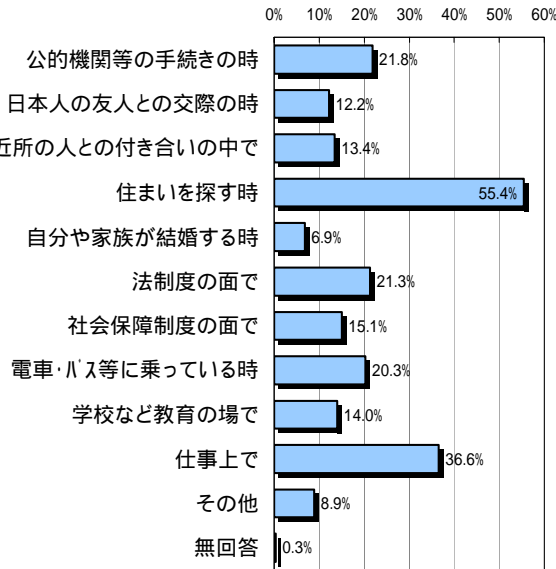


項目	回答数	割合 (%)
1. よくある	141	7.7%
2. 時々ある	895	48.9%
3. あまりない	460	25.2%
4. 全くない	211	11.5%
5. わからない	89	4.9%
無回答	33	1.8%
全回答者数(n)	1829	100.0%

- 日本人との生活上のトラブルの経験は少ないものの、偏見・差別を感じたことが「ある」(「よくある」と「時々ある」と答えた回答者の割合は全体の6割近くを占めており、高い割合になっている。
- 国籍別にみると、中国・台湾、アジア、北アメリカ(米国除く)分類国籍の回答者で「ある」の割合が6割以上と高く、フィリピン国籍の回答者が4割弱で他の国籍に比べて低い。
- 練馬区が住みにくいと認識している回答者ほど、偏見・差別が「ある」と認識している割合が高くなる傾向がみられる一方で、非常に住みやすいと答えた回答者であっても5割近くが偏見・差別を感じたことが「ある」と答えている。
- 近所の日本人との付き合いの程度で、挨拶をする程度と答えた回答者に比べて、何か困った時に助け合う、友人として付き合いしている、家族同様に親しいと答えた回答者は、「ある」の割合がやや低くなる傾向がみられる。

日本人からの偏見・差別があると答えた回答者で、最も多くの回答者が偏見・差別を経験したと答えたケースは「住まいを探す時」55.4%で、次いで「仕事上で」36.6%が多い。

問 16-1.【問 16 で「1.よくある」「2.時々ある」と答えた方のみ】偏見・差別はどのような場合にありますか？（はいいくつでも）



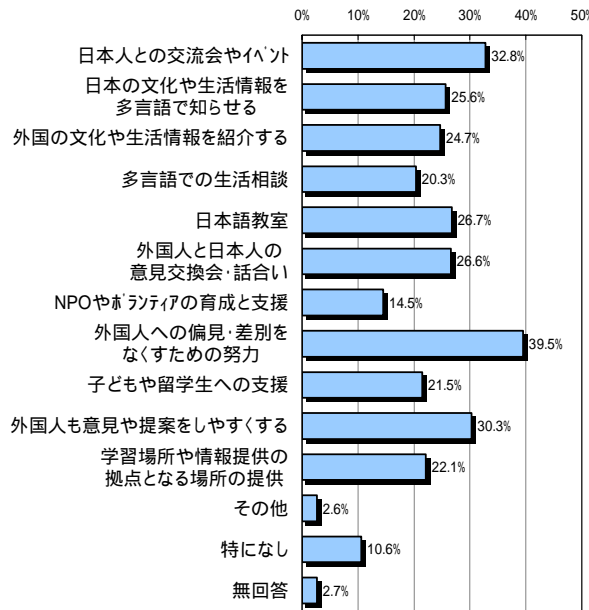
項目	回答数	割合 (%)
1. 公的機関等の手続きの時	226	21.8%
2. 日本人の友人との交際の時	126	12.2%
3. 近所の人との付き合いの中で	139	13.4%
4. 住まいを探す時	574	55.4%
5. 自分や家族が結婚する時	71	6.9%
6. 法制度の面で	221	21.3%
7. 社会保障制度の面で	156	15.1%
8. 電車・バス等に乗っている時	210	20.3%
9. 学校など教育の場で	145	14.0%
10. 仕事上で	379	36.6%
11. その他	92	8.9%
無回答	3	0.3%
全回答者数(n)	1036	100.0%

- ・ 居住地域別みると「住まいを探す時」に偏見・差別があると答えた回答者の割合が、北西部地域在住者で他地域の在住者よりも低くなっている。
- ・ 国籍別みると、「住まいを探す時」の回答割合がいずれの国籍も 5～7割と高い中で、在留資格が日本人の配偶者等である回答者が4割を占めるフィリピン国籍回答者は約3割と低い。
- ・ 韓国・朝鮮国籍の回答者の「公的機関等の手続きの時」、フィリピン国籍、アフリカ分類国籍及び中国・台湾国籍の回答者の「仕事上で」、米国国籍及び北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ分類国籍の回答者の「電車・バスに乗っている時」の割合が比較的高い。
- ・ 日本滞在年数が長期に渡る回答者ほど、「公的機関等の手続きの時」「法制度の面で」「社会保障制度の面で」の回答割合が高くなる傾向がみられる。
- ・ 練馬区が住みにくいと認識している回答者で、特に割合が高くなる傾向がみられる項目としては、「公的機関等の手続きの時」「法制度の面で」「学校など教育の場で」があげられる。
- ・ 日本語で困ることがないと答えた回答者、つまりは日本人とのコミュニケーションにそれほど支障のない回答者で割合が高くなっている項目として、「公的機関等の手続きの時」「住まいを探す時」「法制度の面で」などがあげられる。反対に、日本語で困ることのある回答者で割合が高くなっている項目としては、「電車・バス等に乗っている時」「仕事上で」「日本人の友人との交際の時」があげられる。

(17) 共生のまちづくり推進で区が注力すべきこと

外国人と日本人の共生のまちづくりにおいて区が注力すべきこととしては、「外国人への偏見・差別をなくす努力」と答えた回答者が 39.5%で最も多く、次いで「日本人との交流会やイベント」32.8%、「外国人も意見や提案をしやすくする」30.3%が多い。

問 17. 外国人と日本人がともに生活する「共生のまちづくり」を推進するために、区の対応として、あなたが力を入れるべきだと思うことは何ですか？（はいくつでも）



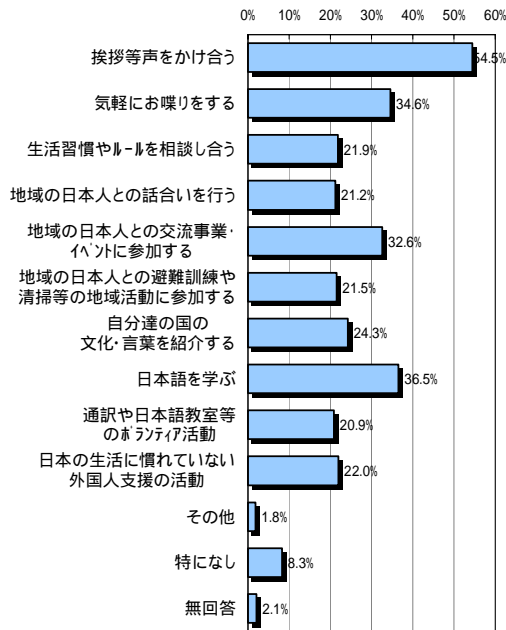
項目	回答数	割合 (%)
1. 日本人との交流会やイベント	599	32.8%
2. 日本の文化や生活情報を多言語で知らせる	469	25.6%
3. 外国の文化や生活情報を紹介する	451	24.7%
4. 多言語での生活相談	372	20.3%
5. 日本語教室	489	26.7%
6. 外国人と日本人の意見交換会・話し合い	486	26.6%
7. NPOやボランティアの育成と支援	265	14.5%
8. 外国人への偏見・差別をなくすための努力	723	39.5%
9. 子どもや留学生への支援	393	21.5%
10. 外国人も意見や提案をしやすくする	554	30.3%
11. 学習場所や情報提供の拠点となる場所の提供	404	22.1%
12. その他	48	2.6%
13. 特になし	194	10.6%
無回答	49	2.7%
全回答者数(n)	1829	100.0%

- ・居住地域による大きな傾向の差はみられないが、「NPOやボランティアの育成と支援」の割合が北西部地域在住で比較的高い。
- ・得意な言語別にみると、「日本の文化や生活情報を多言語で知らせる」「学習や情報提供の拠点場所の提供」の割合がインドネシア語の回答者で、「多言語での生活相談」の割合がフィリピン語、インドネシア語の回答者で、「日本語教室」の割合がスペイン語の回答者で、他の言語よりも高くなっている。
- ・練馬区が住みにくいと認識している回答者では、「外国人への偏見・差別をなくす努力」に次いで、「外国人も意見や提案をしやすくする」の割合が高い。
- ・日本語で困ることがあると答えた回答者では、「日本語教室」に注力すべきと答えた回答者が最も多くなっている。
- ・自由記入欄をみると、選挙権の付与を求める意見等とともに、外国籍住民が社会の一員、あるいは住民の一人として発言する機会や場がない、意見が反映されるシステムがないことから、地域社会で疎外された存在に感じられることを問題視する意見などもみられる。

(18) 共生のまちづくりのために自分自身ができること

日本人との共生のまちづくりのために自分自身ができることについては、「挨拶等声をかけ合う」が54.5%で最も多く、次いで「日本語を学ぶ」36.5%が多い。

問 18. 地域の日本人と理解し合い、練馬区で共に生きていくまちづくりを進めるために、あなたは何かできるとお思いますか？（はいくつでも）



項目	回答数	割合 (%)
1. 挨拶等声をかけ合う	996	54.5%
2. 気軽にお喋りをする	633	34.6%
3. 生活習慣やルールを相談し合う	400	21.9%
4. 地域の日本人との話し合いを行う	388	21.2%
5. 地域の日本人との交流事業・イベントに参加する	597	32.6%
6. 地域の日本人との避難訓練や清掃等の地域活動に参加する	393	21.5%
7. 自分達の国の文化・言葉を紹介する	444	24.3%
8. 日本語を学ぶ	667	36.5%
9. 通訳や日本語教室等のボランティア活動	382	20.9%
10. 日本の生活に慣れていない外国人支援の活動	402	22.0%
11. その他	33	1.8%
12. 特になし	151	8.3%
無回答	38	2.1%
全回答者数(n)	1829	100.0%

共生のまちづくりのために自分自身ができることとしては、いずれも日常生活の中で身近にできる項目の回答割合が高く、回答者（住民）が能動的な実行を伴う活動等については、回答割合がそれほど高くない結果となっている。

年齢が20代～50代と、60代以上とでは傾向に差がみられ、高齢層ほど回答割合が全体的に低く、高齢層になるほど、共生のまちづくりへの参画意識が低下する傾向がうかがえる。

(19) 自由記入欄にみる練馬区に対する意見・要望・提案

ぶんるい 分類	おも ないよう 主な内容
ねりまく じゆうきかんきよう 練馬区の住環境について	<ul style="list-style-type: none"> ・練馬区が住み良い環境であるとの意見が多い。 ・医療施設の整備を望む意見、近隣住民との交流が少ないことを指摘する意見などがみられる。
ねりまく こそだ 練馬区での子育てや きょういく 教育について	<ul style="list-style-type: none"> ・練馬区での子育てに不安を感じている内容の回答が多数みられる。 ・子育てや教育に関する情報提供や親同士の連携体制、行政支援を望む意見などがみられる。
こくさいこうりゆうかんれん 国際交流関連のイベントや かつどうなど 活動等について	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人と日本人との交流の機会としてのイベントを望む声が多くみられる。 ・交流の機会が少ないこと、イベントによって相互理解促進を期待する意見なども多い。
がいこくせきじゆうみん たいしやう 外国籍住民を対象とした じやうほうていきやう こうほう 情報提供や広報について	<ul style="list-style-type: none"> ・交流事業やイベント開催、多言語による行政情報及び生活関連情報の提供、区のWEBサイトの多言語による情報提供の充実化など多種多様な意見、提案が記述されている。 ・具体的には、外国人が参加可能な地域の交流活動やイベント、日本語講座等の開催のお知らせをできるだけ広く、また外国人の受信率を高める方法で情報提供がなされることを望む声とともに、防災関連情報の入手を望む声が多くみられる。
た きやうせい こうりゆうかんれん その他の共生・交流関連の とく 取り組みについて	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所の外国人に対する対応、外国人と日本人の交流の場の提供、外国人に対する支援策、外国人に留意した書類の提供や行政・福祉・医療体制など、多種多様な意見、要望が記述されている。
にほんご がくしやう 日本語の学習について	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語学習の必要性・重要性及び学習したいとの意向についての記述が多くみられる。 ・一方で、日本語講座について、曜日や時間、中級・上級レベルの学習、生活に密接した情報提供を兼ねたプログラム等々、多様な要望・希望を内容とする回答も多数みられる。
がいこくじん にほんじん きやうせい 外国人と日本人の共生・ こうりゆう そうごりかい 交流・相互理解について	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人、日本人が共生するために必要なこと・大切なこととして、日本人に押し求めることと共に、日本社会で暮らす外国人が為すべきことなど、様々な角度・観点からの意見を記述されている。 ・おおよその意見に共通する事項として、外国人・日本人双方が互いに「理解し合う」「寛容である・受け入れる」「(異なることや日本のルール等を)知る」ことの重要性があげられる。

<p>ぶんるい 分類</p>	<p>おも ないよう 主な内容</p>
<p>へんけん きべつ 偏見・差別について</p>	<p>・回答者が感じた、或いは実際に体験した日本人からの偏見・差別について、アジア出身者に対する偏見、外国人の子どもに対するいじめ、日本社会が閉鎖的排他的に感じられるなどの困惑・不快感などが様々に記述されている。</p>
<p>にほん ほうりつ せいどなど 日本の法律や制度等について</p>	<p>・教育・福祉・医療等の社会保障や選挙権、外国人登録制度などについて、外国人と日本人の同等の義務と権利を求める意見が記述されている。 ・特に選挙権についての意見が自立ち、投票権や参政権がないにしても、社会の一員として意見を述べる機会や場がないことを問題視する声もみられる。</p>
<p>ふどうさんかんれん もんだい 不動産関連の問題について</p>	<p>・外国人による住居の確保が難しいこと、不動産業者で外国籍であることを理由に賃貸を断られた体験などが記述されており、その改善を求める意見や、サポートを望む声もみられる。</p>
<p>しごと こよう きゅうしよく 仕事、雇用、求職について</p>	<p>・金融危機（2008年）以降の低迷する景気動向を背景に、外国人の求職活動の難しさについて述べた回答内容も少ない。 ・また、外国人の雇用機会が平等であることを望む声、仕事を任せる上で信頼してほしいという意見もみられる。</p>
<p>たにほん せいかつ その他日本での生活について</p>	<p>・日本や練馬区での暮らしの中で感じたことや、来日した当初に不安に思ったことなどが、回答者個人それぞれに多様に記述されている。 ・過去に比べて外国人に対する理解や受け入れが向上していると感じる回答者がいる一方で、地域コミュニティの中での（日本人同士を含めた）住民同士の交流の欠如を指摘する記述がみられる。</p>
<p>こんがい ちょうさ 今回のアンケート調査について</p>	<p>・アンケート調査に対し、発意の機会が得られたことや、区役所の広聴の姿勢に好感を抱いたとする記述がある一方で、日本で生まれ育った在日外国人からは違和感・不快感を感じた、外国籍住民の背景の多様性に考慮すべきなどとの記述がみられる。</p>

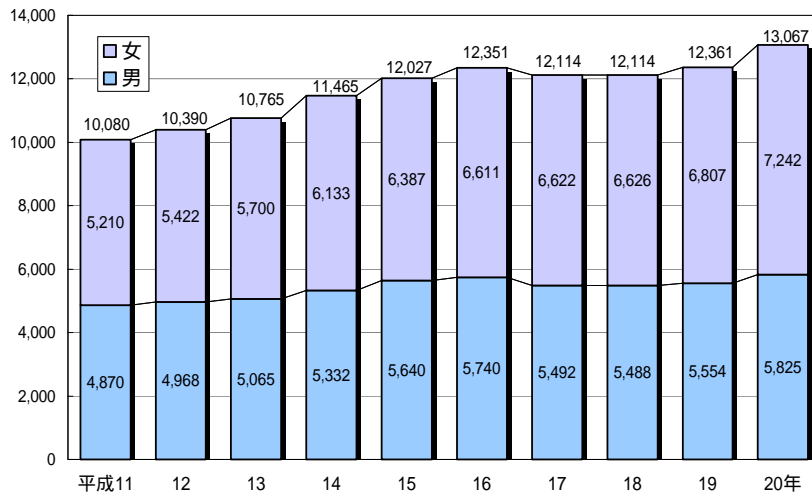
ねりまくない す がいこくせきじゅうみんすう 練馬区内に住む外国籍住民数

ねりまくおよ とうきょうと そうじんこう がいこくじんとうろくじんこう 練馬区及び東京都の総人口と外国人登録人口

項目	練馬区	東京都	23区	平均
総人口(+)	702,922	12,925,583	8,791,197	382,226
住民基本台帳人口	689,187	12,517,299	8,451,067	367,438
外国人登録人口	13,735	408,284	340,130	14,788
外国人登録人口率(/)	1.95 %	3.16 %	3.87%	

出典(~) : 東京都総務局統計部HP「住民基本台帳による世帯と人口」(平成21年1月1日現在)

ねりまく がいこくじんとうろくすう かくねん がつ にちげんざい 練馬区の外国人登録数(各年12月28日現在)



出典 : 「練馬区統計書」(平成20年版)

きょじゅうちいきべつががいこくせきじゅうみんすう 居住地別外国籍住民数

郵便番号	地域区分	外国人登録人口				アンケート回収数(B)	割合(B/A)
		男	女	全体(A)	構成割合		
総数		6,124	7,626	13,750	100.0%	1,829	13.3%
〒176-XXXX	南東部地域	1,867	2,353	4,220	30.7%	545	12.9%
〒177-XXXX	南西部地域	1,800	2,142	3,942	28.7%	506	12.8%
〒178-XXXX	北西部地域	569	821	1,390	10.1%	219	15.8%
〒179-XXXX	北東部地域	1,888	2,310	4,198	30.5%	511	12.2%
ふめい 不明		-	-	-	-	48	-

出典(外国人登録人口データ) : 練馬区文化国際課提供データ

発行 : 練馬区 総務部 文化国際課
〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6-12-1 電話(03)3994-4725